

野辺地町統合小学校新築事業検討委員会

第3回会議 議事録

| | | | |
|---|--|------|---------------|
| 会議日 | 令和5年9月5日 | 会議時間 | 18:00 ~ 19:50 |
| 出席者 | 合計 22 名 (うち委員 13名、事務局 6名、策定支援業務受託者 3名) | | |
| 案件 | (1) コンセプト・基本方針について (2) 統合校舎等の建設場所について | | |
| 議 事 | | | |
| 【案件 (1) コンセプト・基本方針について】 | | | |
| [委員長] | | | |
| 「前回の学校視察は暑くて大変でしたが、同じ時間を共有できたことがとてもよかったと感じています。今回からはグループ討議で進めていきますのでたくさんの意見を交わして頂ければと思います。」 | | | |
| [事務局]/資料1の説明 | | | |
| 委員から質問等はなし。 | | | |
| [委員長] | | | |
| 「コンセプトは新しい学校の大きな柱になるものですので、今後話し合いの中で迷いや行き詰まりが生じたときに立ち返ってよりどころにする、そんなフレーズになればと思います。まだ一つにまとまっていなくても、6時25分を目処にして発表して頂き、全体としてまとめていきたいと思っています。わからないことがあればアドバイザーの業者の方に質問して下さい。」 | | | |
| 【グループ討議実施（議題：コンセプト）】 | | | |
| ・アイデアや考えを付箋に書き出し、貼り付け、グループ分けをして意見をまとめた。 | | | |
| 【Aグループの討議結果】 | | | |
| [委員] | | | |
| 「たくさん意見がでましたが、地域で子育てできることが大事であると考えました。自己肯定感が高まる、安全に、いい学習ができる、相手のことを思いやる気持ち（を育める）、そういった意見は“地域で子育て”というところに繋がっていくのかなと思います。」 | | | |
| 【Bグループの討議結果】 | | | |
| [委員] | | | |
| 「まずは“安全”です。親が安心して送り出せる、送り迎えがしやすい（環境が必要）というところ。次に環境美化として、刺激が少ない場所、集中して学習できる場所、子供が学校に行き | | | |

野辺地町統合小学校新築事業検討委員会

第3回会議 議事録

たくなるような場所、育てる力が身につく設備や施設、休みの日でも遊びに行きたくなる敷地です。もうひとつは“共有”です。町の人・自然と共に生活していける場所、共働きの多いので学童が充実していて、明るい空間、子供が将来未来の世界に羽ばたける空間、(自分たちが)子供の頃こうだったらよかったなと思うところがあればいいな、というところです。まとめると、“子供たちが行きたくなるような場所、支えあい、助け合い”です。」

【Cグループの討議結果】

[委員]

「学び、環境、構造、安全、地域の5つに分けて考えました。野辺地町のいいところは自然が豊かなところで、解放的にその自然を取り入れ、その環境の中で地域と話し合いながら、構造や安全に力を入れ、楽しくのびのび過ごしながら勉強できるようにというところです。」

[委員長]

「コンセプトについては、“地域から期待され、安心・安全で、思いやり助け合い、そして子どもが主役の学校を作る”。だいたいこのような形に集約されると思うのですがいかがでしょうか。」

[委員]

「いいと思います。」

[委員長]

「次の基本方針については、みなさんが付箋に書いたことをより詳しくしたり分類したりして頂きます。単語だけの場合は自分のイメージをもっと詳しく文章にして頂くとまとめやすいと思います。ここで出た付箋は事務局で全部集めてまとめて頂きます。」

[委員]

「議論に入る前に質問です。馬門学校は最終的に複式学級になりましたが、どのような経緯だったのでしょうか。複式になることについて、住民から要望があったのでしょうか。」

[事務局]

「近隣住民からの要望ではなく、その年の学年の人数をもとに編成されています。」

[委員長]

「補足ですが、県の学級編成基準というものがあり、その基準となる人数をもとに、学級数が決定されます。」

[委員]

「野辺地小学校ですが、1回目の資料の素案5ページ④に、『屋外運動場が校舎よりも高い土地にあり屋外で活動する児童に対し教職員の目が届きにくい』とありますが、我々が小学校の頃は逆(現野辺地小学校の前の校舎。現在のグラウンド側に校舎があった)は逆でした。なぜ、変えたか理由はわかりますか。」

野辺地町統合小学校新築事業検討委員会

第3回会議 議事録

[委員長]

「おそらく現在の校舎を建てるにあたって敷地の使い方を検討した結果だと思います。その時代のデザインの流行やニーズにも関係しているのかもしれませんが。」

[委員]

「これから敷地の配置検討にも入ると思い、聞いてみました。」

【グループ討議実施（議題：基本方針）】

【Aグループの討議結果(付箋内容)】

- ・先生も子どもも満たされる
- ・元気に活動できる
- ・明るく楽しい
- ・自然の中で楽しめる
- ・遊び方を知らない⇔ゲームだけじゃなく体をつかった遊び
- ・安心・安全（ケガ等なく、見守りやすい、いじめがない）
- ・地域で子育てをする
- ・地域の中心、文化的
- ・野辺地に戻ってきたいと思える学校
- ・野辺地愛
- ・人づくり
- ・心身ともに健やかに
- ・子供と保護者によりそう
- ・防犯 防犯に強い
- ・助け合い 調和
- ・想いやり（相手の気持ちを考えられる）
- ・コミュニケーションのとれる
- ・学び 将来を見すえた
- ・自立できる
- ・自己肯定感を高める
- ・創造 従来のやり方にとられない考え方
- ・尊重しあえる
- ・未来を創る

【Bグループの討議結果(付箋内容)】

- ・楽しいを伸ばせる
- ・未来 将来 子供が未来の世界にはばたく 将来を見据える
- ・子供の気持ちに立って
- ・子供の頃こうだったら良かったなと思う所があれば
- ・地域の人も施設を開放して使用できるような場所（多目的ホール）公民館とも兼用できるように
- ・壁が動く
- ・学童～図書室へ体育館が近い造り（通級学級も近く）
- ・多目的ホールが充実（ボルダリングができる所など）けがのしにくい造りがメイン
- 遊び心のある造り
- ・友達と語りあえる
- ・共有・共生 町の人とのふれあい 子供たちの横のつながりを大事に
- ・働いている両親の家庭が多いので学童が充実しているような
- ・明るい空間 照明がなくても行動できる 子供たちの笑顔
- ・町の人、自然とともに生活する
- ・のんびり休める空間
- ・環境・美化 野辺地らしい自然・環境
- ・集中して学習できる
- ・集中できる
- ・休みの日も遊びに行きたくなるような（敷地内）

野辺地町統合小学校新築事業検討委員会

第3回会議 議事録

- ・子供が学校に行きたくなる
- ・育てる力が身につく 設備 施設 (例) 技術家庭図工等に
- ・色々な学習ができる 外で
- ・子どもが積極的に学ぶことができる 集中 グループで メリハリ
- ・安全 子ども達がケガをしない場所、段差、手すり、死角等
- ・安全で楽しい(ケガのしにくい造り) ・親が安心して送り出せる
- ・車の通りが安全(送り迎え) 前面道路が広い
- ・困ったことがあったら支え合う 助け合う 不登校の子も多いので学校の中身(人)としても安心できるように
- ・地域の人や先生の目が届きやすい →安心・安全 支え合い

【Cグループの討議結果(付箋内容)】

○学び

- ・楽しく どこにもない! 青森県内で今までにない! ・のびのび ・IT、PC
- ・勉強中ユーモアがあり楽しい授業

○環境

- ・自然の光 風 中庭 ・自然が豊か ・桜 ・開放的 壁を可動間仕切
- ・冬: あたたかい 夏: 涼しい

○構造

- ・ICT ・修繕費を安く 野辺地は金がない ・シンプル ・そうじしやすい
- ・直しやすい ・デザイン重視より使いやすい学校を
- ・学年問わず交流できるスペース

○安全

- ・雪の対策 ・学校前の安全さ 今は車が危険! ・セーフティー ・防犯
- ・元気 安全 ・不審者対策にも力を入れる

○地域と

- ・地域に開かれた ・地域のみなさんが使いやすい学校
- ・地域の人が利用しやすい ・不審者対策を両立させる
- ・ムダがない 学年問わずオープンに! 仲良く

[委員長]

「それでは記入した付箋はそのまま残して下さい。事務局の方にまとめて頂きます。」

野辺地町統合小学校新築事業検討委員会

第3回会議 議事録

【案件（2）統合校舎等の建設場所について】

[事務局]/資料2～6の説明

委員から質問等はなし。

[委員長]

「たくさんの資料を参考に、適正な建設の場所についてグループ毎に意見交換して下さい。」

グループ討議実施

【Aグループの討議内容】

[委員]

「資料説明の話を聞くと野辺地小学校でしょう。小中一貫は、資料説明ではデメリットが目立っていましたが、メリットも大きいと思います。」

空き教室が多くなると別棟を建てての放課後児童クラブもどうなのか…

地域で育てるというコンセプトから、将来的に空き教室がどう地域に解放されていくかは、建物のハードの部分に組み込んでもらいたいと思っています。」

[委員]

「小中一貫については資料の通り、メリットデメリットたくさん聞きます。」

【Aグループの討議結果】

[委員]

「結論から言うと野辺地小学校です。小中一貫について、子供が減った後にどのように地域で使えるようになるかなど話し合いました。」

【Bグループの討議内容】

[委員]

「小中一貫校にするかどうかは全員で話し合わないといけない。校舎が離れていても連携型という形もある。」

[委員]

「小学校を後々違うことに使える建て方というのもありだと思う。」

[アドバイザー]

「将来、地域で使えるように計画していくことは可能である。」

[事務局]

「小中一貫は離れた場所でもできるので、建設場所は必ずしも中学校と同じ場所でもよい。」

[アドバイザー]

「小中一貫を基準に場所を考えずに、今この小学校を建てる場所としてどこが適しているのかにスポットを当てて協議して問題ないのではないか。」

野辺地町統合小学校新築事業検討委員会

第3回会議 議事録

[委員]

「そうなると中心の野辺地小がいい。」

[事務局]

「はじに建てるとスクールバスの問題もあります。」

[委員]

「若葉小の辺りは入りにくく、学校内で車が回りにくい。」

[アドバイザー]

「野辺地小以外の敷地は狭いので、安全確保に敷地がとられ非常に窮屈でこれしかないといった配置になってしまう。野辺地小の敷地は計画に色々な可能性があり、環境面もいいのではないか。」

[委員]

「敷地は3段になっていますか。」

[事務局]

「愛宕公園まで入れると3段です。駐車場とグラウンドも取れます。」

[委員]

「いいと思います。」

【Bグループの討議結果】

「最終的なところまではいきませんでした。町の中央、土地の面積、道路の幅、などを踏まえると野辺地小学校です。」

【Cグループの討議内容】

[委員]

「建設地はやはり野辺地小学校がよいと思う。」

[委員]

「野辺地小学校が一番よいが、疑問があるのは野辺地小学校のグラウンドに建てた場合、グラウンドが狭くなってしまうのではないか。」

[委員]

「造成してレベルをそろえたりするのか。」

[委員]

「学校を建てる位置によってはグラウンドが狭くなる。周辺の道路にも影響がある」

[事務局]

「一つの考えとして、既存校舎部分の部分を駐車場とし、敷地北側に学校を建てるとグラウンドが狭くならずに整備できる。この計画だと学校とグラウンドは同レベルで整備でき、駐車場も多く整備できる。現状参観日や行事の時は駐車場が不足している。」

野辺地町統合小学校新築事業検討委員会

第3回会議 議事録

[委員]

「それはよい考えだと思う。」

[委員]

「余談になるが、敷地内にあるSLが新築計画と干渉する。当時大変な思いをして運んだため残したい気持ちもあるが、移設、改修、維持に膨大な金額がかかり、どのようにするべきか悩みどころである。」

[委員]

「移設するのであれば今野辺地小学校が建っている位置がよいのではないか」

[委員]

「野辺地小学校学区はスクールバスはあるのか」

[委員]

「若葉小はスクールバス有り。統合後もスクールバスがあったほうが安心感がある。」

[事務局]

「スクールバス、民間バスを使ったときの補助については、今後検討が必要」

【Cグループの討議結果】

[委員]

「場所は野辺地小学校でいいと思います。統合後のスクールバスの有り方等についても議論しました。」

[委員長]

「皆さんの意見をまとめると野辺地小学校がよいという意見が多かったです。しかし、課題は多くあると思います。本委員会は統合小学校新築事業検討委員会ですが、小中一貫の件は議論する必要があるため、資料をお出ししています。私も小中学校の教員を行ったことがあります。一貫校のメリットもありますがデメリットもあります。小学校と中学校で文化が違う。忙しい時期も違う。教育実習等では決して体験できないさまざまな課題があります。

今の野辺地町の状況で考えると、小中の学校間の連携は離れた場所でも非常によくできています。生徒は行事や朝の挨拶運動で連携があり、教員も校長会・教頭会で連携しています。個人的な意見ですが、分離型の一貫教育に近い枠組みが野辺地町ではすでにできていると思います。そういった部分も含めて当委員会の提言として小中一貫の件についても触れさせていただきたいと考えています。

今後、建設場所については、野辺地小学校の位置をベースに話を進めてよろしいでしょうか。」

[委員]

「宜しい。」

【閉会】

[事務局]/閉会の挨拶。次回の検討委員会の開催は9月26日火曜日。